

管楽合奏は楽しい会？

No.35 "近代から現代へ"

2010年10月23日(土)14時開演 東部フレンドホール

G. ジェイコブ (英/1895~1984)

「嬉遊曲」(全3楽章)

(Ob)楠原/小野(Cl)上田/武田(Fg)森川/三好(Hn)市原/市本

G. ヒダシュ (洪/1928~2007)

「5つの小品」

(Cl)兼氏/景山(Fg)大石/角山(Hn)市原/加治

J. ムーケ (仏/1867~1936)

「組曲」(全3曲)

(Fl)岡添(Ob)桃原(Cl)景山/武田(Fg)山内/角山(Hn)中原

----- Intermission -----

A. カブレ (仏/1878~1925)

「ペルシャ組曲」(全3曲)

(Fl)信澤/岡添(Ob)楠原/桃原(Cl)兼氏/景山(Fg)大石/山内(Hn)加治/山内

R. シュトラウス (独/1864~1949)

「セレナーデ」

(Fl)信澤/岡添(Ob)小野/桃原(Cl)天沼/上田(Fg)大石/山内(Hn)中原/山内/市原/市本(Kfg)富田

出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond)杉本暁史(すぎもと さとふみ)

武蔵野音楽大学を卒業後ウィーン音楽アカデミー(現演劇音楽大学)に留学、K. エールベルガー氏に師事。ウィーンライムント劇場を皮切りに、アーヘン、ダルムシュタット、アウクスブルク、ウルム各劇場の首席奏者を歴任。毎年ウルムの奏者と日本各地で「音楽草の根活動」という演奏活動を行う。またドイツからの演奏団体の日本演奏活動支援など日独親善にも務める。2004年ウルム劇場を定年退職。2010年8月に永住帰国を果たす。日本での活動が期待される。

(Cond & Fg)森川 一(もりかわ はじめ)

法政大学在学中ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、別科修了後元ハンブルク州立歌劇場奏者F. ヘンカー氏に師事。フリーの奏者として今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を主催。その他オケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。演奏活動では「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを、またリード製作者としても高い評価を得ており「森川リード倶楽部」も主宰している。2002年に法政響のOBで設立した「法政ファゴットの会」同人

(Fl)岡添 隆(おかげ たかし)

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。現在はアンサンブル・メゾン、東京アマデウス管弦楽団で演奏活動中。普段は某メーカーで化学の研究企画に携わる。「研究のアイデアは音楽で演奏する時のアイデアと共通するものがある」と主張し、部下達にあきられている。指揮者デビュー!

(Fl)信澤達也(のぶさわ たつや)

東京大学音楽部管弦楽団で活躍し、その間フルートを磯部庄平氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団に所属。鉄鋼系化学メーカーの研究所でコールタールを扱う日々。最近、年俸の半分くらいの楽器を買ってしまった(但し、中古)今日も勿論、それで演奏。

(Ob)小野亮介(おのりょうすけ) 初参加!

中学時代からオーボエを始め、これまで市川雅一、呉山平煥の各氏に師事。大学時代は京都大学音楽部交響楽団に所属。卒業後はJ R東日本に入社し、様々なアマチュアオーケストラや室内楽発表の場にて演奏活動を続ける。近代フランス音楽が大好物。

(Ob)楠原千佳子(くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団に所属。大学~大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がザラザラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(Ob)桃原健一(とうばる けんいち)

東京藝術大学卒業。オーボエを齋藤勇二、似鳥健彦、小島葉子、小畑善昭、藤木聡の各氏に、室内楽を海鋒正毅、中川良平の両氏に師事。現在バロックから現代までオーケストラ、室内楽等で、更に最近はポップスの分野でも活動して活動の幅を広げている。「伊伊桑追悼演奏会」「アンサンブルノマド」「東京の夏音楽祭」等の演奏会に出演。「オブセッション」の演奏では作曲者篠原真氏本人から好評を得た。また、度々フィンランドのクフモ室内楽音楽祭に参加し研鑽を積んでいる。

(Cl)天沼隆彦(あまぬま たかひこ)

小学校4年からクラリネットを松代晃明氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団員。キャノンのエンジニアとしてスタートしたが、その後経営コンサルティングを経て様々なドイツの会社の日本支社長を務める。2009年にドイツ企業相手の経営コンサルティング会社を設立。滞独13年。

(Cl)上田奈緒(うえだ なお)

10歳よりクラリネットを始め。桐朋学園大学音楽学部卒業、同研究科修了。第5回金沢市新人演奏会出演、審査員グランプリ受賞。第16回江戸川区新人演奏会出演。第6回石川県新人管弦門コンサートにてオーケストラアンサンブル金沢と共演。これまでにクラリネットを柴欽也、二宮和子の両氏に、室内楽を鈴木良昭、四戸世紀、藤井一興の各氏に師事。現在フリー奏者として活動。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)景山賢嗣 (かげやま けんじ) 初参加!

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団に所属。クラリネットを平林邦男氏に師事。大学一年の情報処理の成績が「可」であったにもかかわらず、大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤めている。専門は、大量トランザクションを扱うオンラインシステム。

(Cl)兼氏規雄 (かねうじ のりお)

東京藝術大学卒業後、ミュンヘン音大に留学する。帰国後水戸、東京でリサイタルを行い、水戸の演奏会はTV放送された。NHKFM、水戸芸術館主催事業などへも出演。元・水戸短大講師。現在は大東文化大学及び茨城大学非常勤講師を務めながら、室内楽活動を主にしている。度々オペラシティで催しているリサイタルは音楽の友誼上で激賞された。水戸ゾリストン主宰。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)武田勝正 (たけだ かつまさ)

立教大学交響楽団で演奏後、(社)日本音楽著作権協会にて音楽家の権利を守りつつ仙合ニューフィル、京都フィロムジカ管、京都シティフィルハーモニー響の各オーケストラを経て、現在モーツァルト・アンサンブル・オーケストラに在籍している。クラリネットを元京響首席、石橋耕三氏に師事

(Fg)大石龍巳 (おおいし たつみ)

京都大学音楽部交響楽団で活躍する。阿部氏の後輩である。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動中。本業は地方公務員。横浜で街づくりの仕事に携わっている。天気の良い日のランドマークタワーの眺望は最高とのこと。演奏会にお出での皆さん、横浜に行きましょう!

(Fg)角山由美 (かくやま よしみ)

法政二高ではプラスその後法政大学交響楽団で演奏、ジュネスにも出演する。卒業以来(社)日本音楽著作権協会で音楽家の権利を守る仕事一筋。このほど一線を退いたことに伴い、改めてファゴットの基礎から取り組みたいと楽器を奏する事への意欲は益々盛んであり、加えてコントラファゴットの名手でもある。「管楽合奏は楽しい会?」ホームページの管理人。[法政ファゴットの会]同人

(Fg)三好純子 (みよし じゅんこ)

中学の吹奏楽部でファゴットを始める。千葉大学在学中よりファゴットを森川一氏に師事し、虎ノ門交響楽団で角山氏と演奏。その後福岡にて福岡市民オーケストラ、アルモニア管弦楽団(佐賀)にて活動。2008年より東京在住。測量調査会社で、地図や大量のデータと毎日格闘している。現在、モーツァルト・アンサンブル・オーケストラに在籍。仕事と家事と趣味のバランスが悩みのタネである

(Fg)山内 静 (やまうち しずか) 初参加!

東京音楽大学ピアノ科卒業。在学中、教職オケの授業でFGに出会う。卒業後ピアノは休止するも、ユーモラスで温かい音が大好きでFGは続ける。5年前、出産育児で全ての音楽活動が停止!昨年より再開し市川交響楽団に入団する。ピアノ人生越えたかも...と思う今日この頃である。

(Kfg)富田達志(とみた たつし)

法政大学交響楽団でファゴットを始める。同校卒業後一貫して東京楽友協会交響楽団に所属し、また幾つかのアマチュアオケにも関係して演奏活動を続けている。今回はコントラのみでの出演。法政ファゴットの会同人

(Hr)市原秀紀 (いちばら ひでき)

茨城県出身。オーケストラのホルンに憧れ、中学校からホルンを始める。東京大学音楽部管弦楽団では故・伊藤泰世氏に師事、大学院時代は転居の度に市民オーケストラを渡り歩く。長い学生生活の後東京アマデウス管弦楽団に所属し、ほぼ同時に企業の研究職へ。入社面接で東京配属と騙され、沼津に配属される。現在は週末になると楽器を背に上京し、オーケストラから室内楽、ホルンアンサンブルなど精力的に活動し、週末の疲れで月曜日にぐったりする日々である

(Hn)市本絢子 (いちもと あやこ) 初参加!

広島県立安古市高校および国立音楽大学卒業。広島市新人演奏会出演。同校卒業後桐朋学園大学研究科修了。別府アルゲリッチ音楽祭にオーケストラメンバーとして参加。これまでにホルンを河原完、澤敦、故一色隆雄、大野良雄、西條貴人、今井仁志、室内楽を生島繁、山本英助、三浦徹、津堅直弘、鈴木良昭、幡崎耕三、浅野高瑛の各氏に師事。

(Hr)加治祐子 (かじ ゆうこ) 初参加!

12歳よりホルンを始め、埼玉県立伊奈学園総合高等学校芸術系(音楽)を経て、2008年東京音楽大学を卒業。現在はフリー奏者として、オーケストラをはじめ、室内楽にも積極的に取り組み、ジャンルを問わず演奏活動中。今までホルンを、曽根敦子、水野信行、山岸博、西條貴人各氏に師事。

(Hr)中原史生 (なかはら ふみお)

京都大学交響楽団に籍中にホルンを小山亮氏に師事。大学院在学中に演奏活動から離れるも、就職を機に復帰。現在はアンサンブル・メゾン、茨城交響楽団、クローデルクインテットで活動中。普段は海洋動物学が専門の大学教員をしており、唇の日焼け対策に苦労している。

(Hr)山内正晴 (やまうち まさはる)

高校生の時からホルンを始め、いろいろなプロ奏者を聴いて手本にして勉強してきたので、特に師事したと言える先生はいない。現在、市川交響楽団に所属。楽器はドイツのアレキサンダー社製を使用。

19世紀の終わり頃管楽器は現在の形を獲得しました。それでも国によつての違いはありますが、現在聞かれる音色に到達したと言う事です。従って今日のプログラムは、当時と変わらない音を楽しめる作品と言えるでしょう。「管楽のオーケストラ」の響きを楽しんで戴ければ幸いです。

"管楽合奏は楽しい会?"は文字通り管楽合奏の楽しさを追求しています。またプロとアマチュアがコラボレーションをする事で、その間にあると思われる「最良の演奏」を狙う団体です。つまり「プロの技術で、アマチュアの心」を持った演奏が出来れば、これこそが「フィルハーモニー」だろうと考えるのです。そうした理想にどれだけ近付けるか、その判断は御来場の皆様に判断にお任せ致しますが、最後までお楽しみ戴ければ仕合わせに存じます。

宜しければ、感想などお聞かせ下さい。メールアドレスは heckelfg@gmail.com です。